

1. はじめに

1-1 背景

愛知県岡崎市は、人口約 38 万 5000 人の市である。市の西部に、徳川家康の生誕地である康生町があり、その中心が康生通りと呼ばれる商店街である。かつての康生通りは、大型店舗に多くの人が訪れ、歩道も人や自転車で溢れていたが、現在は人通りも少なく年々高齢化が進み、シャッターの閉まった店が目立つようになっている。

しかし、康生町には、岡崎城や市の花に認定された藤の花が咲き誇る岡崎公園、名産品である八丁味噌の製造を行うカクキュー八丁味噌の郷などがある。また近年は、YouTuber 東海オンエアの活動拠点にもなっており、多くのファンがロケ地を訪れるなど、観光資源に恵まれたまちでもある。

1-2 研究の目的

こういった現状を踏まえ、この企画では、「まちに泊まる」をコンセプトとして、若者層に、観光で康生町を訪れてもらい、まちの良さを知ってもらうことによって、康生町に活気を取り戻すことに寄与したいと考え、以下の 3 つの活動を行うこととした。

①ゲストハウスの提案

宿泊やイベントなどに利用できるゲストハウスの提案を行う。1 人～複数人用と女性専用ゲストハウス、そして、市が所有する敷地に設置するモービルホームの 3 つの提案である。これらをそれぞれの特徴を活かして点在させることによって康生町全体の活性化に繋げる。

②リーフレットの作成・配布

康生町を中心とした岡崎市の観光地や飲食店を掲載したリーフレットを作成し、配布する。若者が手に取りやすいようなイラストを多く取り入れたデザインとする。

③SNS による発信

さらにより多くの人に岡崎市のことや提案内容を知ってもらうために、Instagram を利用した発信を行う。

1-3 研究の方法

研究の方法は、以下のとおりである。

①基本資料・情報の収集（岡崎市ホームページ、既存のパンフレットや資料、「ここ de やる Zone」への聞き取り等）、②参考事例収集（ゲストハウス事例、リーフレット事例等）、③ゲストハウス設計案の作成、④リーフレット案の作成、⑤ゲストハウス設計案およびリーフレット案へ

の意見収集、⑥収集した意見にもとづき修正、設計提案およびリーフレット完成版作成、⑦これらの完成版の提示、提供・配布。

2. 諸活動の概要

2-1 活動の流れ

実施した主な活動は以下のとおりである。

2020 年 9 月～ 康生町の基本情報収集

10 月 1 日 岡崎市役所、現地調査

11 月 1 日 岡崎市空き店舗撲滅運動ここ de やる Zone 担当者(市役所職員)の案内のもと現地調査

11 月 11 日 津島市のゲストハウス見学

11 月 17 日 ここ de やる Zone 担当者との意見交換

12 月～ 全国各地の各種既存事例の収集

12 月 7 日 ここ de やる Zone 担当者との意見交換

2021 年 1 月～ ゲストハウスのコンセプト作成

2 月 10 日 ここ de やる Zone 担当者との意見交換

2 月 24 日 岡崎市役所で空き家担当者に聞き取り調査

3 月～ 利用する空き地・空き家の選定と現地調査

3 月 26 日 ここ de やる Zone 担当者との意見交換

5 月 7 日 ゲストハウス用建物の寸法計測等調査
現状平面図の作成

Instagram による外部発信開始

5 月 12 日 ここ de やる Zone 担当者との意見交換

6 月～ ゲストハウス提案図面作成

6 月 16 日 ここ de やる Zone 担当者との意見交換

7 月～ モービルホーム提案図面作成

8 月 5 日 ここ de やる Zone 担当者との意見交換

8 月～ リーフレットデザイン案作成

9 月～ リーフレット掲載店舗選定

10 月 7 日 ここ de やる Zone 担当者との意見交換

10 月 8 日 リーフレット等案の観光客への意見収集

10 月 25 日 リーフレット掲載許可

11 月 16～17 日 リーフレット最終確認

飲食店、観光協会、市役所での意見収集

11 月 18 日 ここ de やる Zone 担当者との意見交換

12 月 9 日 ここ de やる Zone 担当者との意見交換

12 月 ゲストハウス提案模型作成

2022 年 1 月中旬 リーフレット等の提供・配布

ゲストハウスの設計提案提示

2-2 事前の意見収集

具体的な提案に先だって、意見収集を行った。

①現地調査および基本情報収集

岡崎市には、市議会議員を中心に空き店舗撲滅活動を行う「ここ de やる Zone」という団体があるが、この副代表（市職員）との意見交換の機会を設け、市職員の視点から康生町の現状を尋ねた。有名な観光地である岡崎城やカクキュー八丁味噌の郷（写真1）以外にも、岡崎信用金庫資料館（写真2）や籠田公園、様々な飲食店など多くの魅力的な場所があるが、あまり知られていないことがわかった。

②岡崎市役所にて空き家担当者に聞き取り調査

岡崎市役所商工労政課に2021年2月時点での空き家・空き地の数を尋ねたところ、23カ所あることがわかった。これらを参考に、ゲストハウスの提案に加えてリーフレットの作成、Instagramを利用した発信を行うことにした。

③ここ de やる Zone 担当者との意見交換

1～2ヶ月に1度の頻度で定期的に、ここ de やる Zone 担当者との意見交換を行った。今回の康生町活性化計画を提示したところ、若者らしいアイデアで康生町の良さが生かされた提案であるとの意見をもらった。



写真1 八丁味噌の郷



写真2 岡崎信用金庫資料館

3 空き家・空き地を利用したゲストハウス提案

3-1 ゲストハウスの配置

康生通り周辺を見渡ししながら3か所にゲストハウスを配置することにした（図1）。いずれの宿もここ de やる Zone の事務所で受付を済ませた後、まちを歩きながら宿へ向かう方式とする。ゲストハウスは素泊まりとし、食事はまちの飲食店で、入浴は銭湯でというように、まち全体を宿と見立てて「まちに泊まる」しくみとしている（図2）。利用する空き家は、1人～複数人用（地図上A）（写真3）、女性専用ゲストハウス（地図上B）（写真4）である。また、市所有のL字型敷地にモービルホームを置き、ゲストハウスとして使うとともに、イベント等の折には他所に移動しても使える提案とした（地図上C）（写真5）。

3-2 1人～複数人用のゲストハウス提案

一つ目は、カフェなど飲食店の近くに位置する空き家を利用した1人～複数人用ゲストハウスの提案である。木材を多く取り入れた古民家風の内装とし、1階には宿泊者

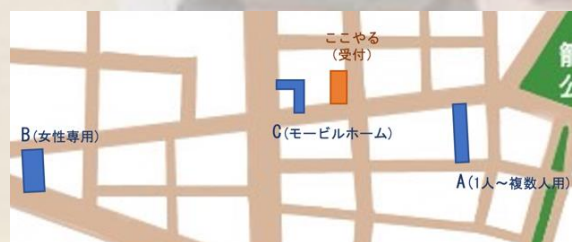


図1 康生通り周辺の提案ゲストハウス



写真3 1人～複数人用



写真4 女性専用



図2 コンセプト図



写真5 L字型敷地

以外も利用可能な足湯を設置した。この足湯は地域の人と観光客の交流の場になり、インターネットで調べても出てこないような穴場スポットを教えてもらうことや、まちだけでなく地域の人のことを好きになることで、観光客がリピーターとなることをねらいとする（図3、写真6）。

2階は、廊下をできる限り減らすことで他の部屋（宿泊者）との繋がりを感じられる設計とし、3階にはシアタールームやプレイルームを設け、ゲストハウスで出会った人との交流を深める場とする。また、コロナ禍の中、家族や友人同士で安心して楽しめる場として利用することも可能とする。

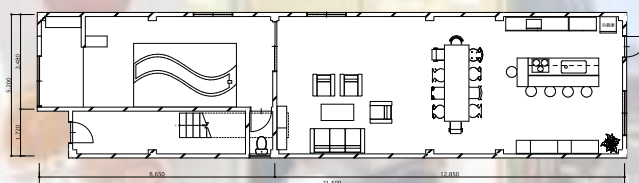


図3 1階平面図

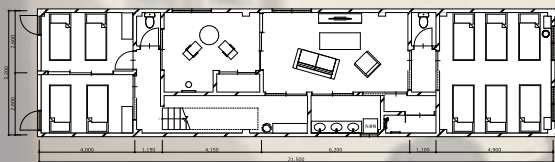


図4 2階平面図

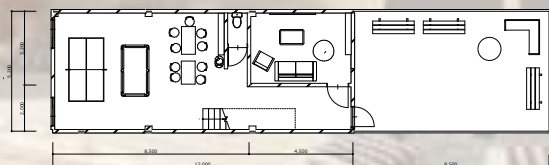


図5 3階平面図



写真6 1階と2階の内装

(左上から時計回り1階キッチン、足湯 2階和室、寝室)

3-3 女性専用のゲストハウス提案

二つ目は、銭湯の近くに位置する空き家を利用した女性専用のゲストハウスの提案である。銭湯の近くに位置しているので、女性でも安心して利用できることから女性専用がふさわしいと考えた。1階は、女性が好み、居心地の良い白と木を基調として、韓国やお風呂カフェをイメージした設計とした(図6、写真7)。2階はカプセルホテル風として、宿泊価格を抑えることで周辺の宿泊施設との差別化を図ることをねらいとした(図7)。3階はグループでも宿泊できるよう3~4人部屋とした(図8)。

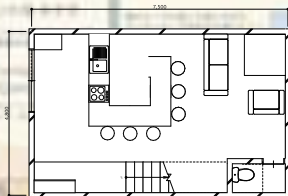


図6 1階平面図

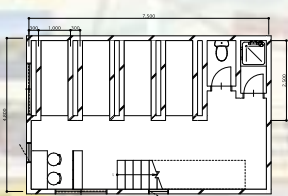


図7 2階平面図

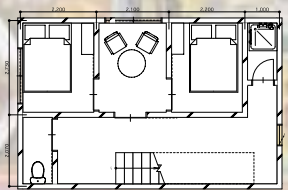


図8 3階平面図

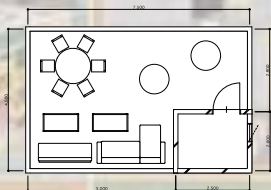


図9 屋上平面図



写真7 1階と2階の内装

(左上から時計回りに2階カプセルホテル、1階リビング、2階メイクルーム、1階カフェ)

3-4 一棟貸しのモービルホーム提案

三つ目は、L字型の空き地を利用したモービルホームによる一棟貸しの提案である。車輪のついたモービルホームを設置し、移動させて敷地内にスペースを確保することができ、他所へ出向いてイベント等に利用することもできるようにした(図12)。



図12 平面図

4 リーフレット完成版

リーフレットは両面刷り3つ折りとした。内容は以下のとおりである。

①表面(図13)

左面は表紙である。写真を使わず、岡崎城を手書きで描くことで中が気になるようなデザインとした。中央面は、籠田公園周辺の飲食店やショップを紹介するマップである。色味を抑えて柔らかいテイストの手書きイラストを載せた。マップには、お店がある場所にイラストとアルファベットを載せることで位置をわかりやすくした。また、店舗のInstagramアカウントも掲載している。右面では、康生町周辺の飲食店を9つピックアップして、実際のランチメニューの写真や、おすすめの商品を文章とともに紹介している。

②裏面(図14)

左面では、おすすめの見光地を写真とともに3つ紹介し



図 13 表面（表紙、マップ、飲食店）



図 14 裏面（観光地紹介、康生町マップ、1日プラン）

ている。中央面では、康生町の広域マップを表面と同様の
手書きで仕上げ、自動車がなくても移動しやすいよう、サ
イクリングシェアの情報を QR コードとともに掲載してい
る。右面では康生町めぐり1日プランを2つ紹介している。
写真の切り抜きを載せることで、お店の雰囲気がいよゝ伝わ
りやすいようにした。

完成したリーフレットは、市役所や観光協会、飲食店などに提供・配布した。

5 SNSでの発信

Instagram のアプリを利用して、康生町を中心に、岡崎市内の飲食・施設・店舗・イベント、リーフレットや設計提案などを発信した。表紙画像は、文字を手書きにすることによって、身近に感じてもらえるようにした。また、枠の色をジャンルによって、飲食：橙系、施設：緑系、店舗：青系、イベント：桃系などに分けることで見返しやすいようにした（図 15）。（アクセス数の最大表示期間が 90 日のため）2022 年 1 月はじめまでに 8380 件のアクセスがあり、一枚の画像を 122 人もの人が保存していた。

今回の企画が岡崎市康生町の地域活性化に寄与できることを願いたい。



図 15 SNS 発信